

## 皮膚科

### 1. スタッフ

科長（兼）教授 藤本 学

その他、教授 2 名、病院教授 1 名、准教授 2 名、講師 1 名、助教 8 名、医員 11 名、医療技術職員 1 名、病棟事務補佐員 1 名

（兼任を含む。また、教授、准教授、助教、医療技術職員は特任、寄附講座を含む。）

### 2. 診療内容

皮膚科疾患全般を対象としているが、特にアトピー性皮膚炎、膠原病、薬疹、自己免疫水疱症等のアレルギー性疾患を中心に菌状息肉症、皮膚潰瘍、乾癬、脱毛症、白斑などの皮膚悪性腫瘍、疾患や結節性硬化症、先天性角化異常症及び先天性表皮水疱症などの遺伝性皮膚疾患に対応し、きめ細やか、かつ専門的・先進的医療を提供している。

アトピー性皮膚炎の場合、専門外来での外来診療のみならず、皮疹悪化の原因究明と患者教育のために短期間の入院治療も行っている。また、関連病院間で病診連携を開始し、当科は大阪を中心としたアトピー性皮膚炎の拠点病院となっている。

膠原病の中でも特に強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデス、ベーチェット病、シェーグレン症候群を中心に診療している。外来での診療はもちろんのこと、入院の上、ステロイド、免疫抑制剤、免疫グロブリンなどの治療も行っている。

尋常性乾癬と尋常性白斑の治療で近年、Narrow-band UVB 療法という波長 311nm の光線を選択的に当てられる装置による光線療法が従来の UVA、UVB を用いた光線療法と比べて有効であるという報告があり、当科でもこの Narrow-band UVB を半身に照射できる装置と波長 308nm のエキシマランプを用いての治療を現在行っている。また、尋常性乾癬の難治例には生物学的製剤や免疫抑制剤による治療、尋常性白斑の治療としてビタミン D<sub>3</sub>療法や吸引水疱蓋、ミニグラフトによる皮膚移植も行っている。

菌状息肉症、皮膚リンパ腫の場合、そのステージに応じて治療を行っている。病初期は上述の Narrow-band UVB 療法を含んだ光線療法を外来で行い、進行期は入院のうえ、光線療法と化学療法を組み合わせ集学的治療を行い、治療成績の向上に役立っている。さらに、臨床治験も多く、積極的に行っている。

円形脱毛症の治療として、外来で SADBE または DPCP を用いた局所免疫療法を行っている。

皮膚悪性腫瘍の場合、外科的治療、放射線療法、化学療法など一連の治療を包括的、集学的に行っており、進行期症例も扱っている。

薬疹の場合は入院のうえ、その原因究明を行い薬疹カードを発行している。

尋常性天疱瘡や水疱性類天疱瘡などの水疱症の治療は、重症の場合、入院のうえ、ステロイド大量内服療法、パルス療法、免疫抑制剤による治療、血漿交換療法、ガンマグロブリン大量療法などを症例にあわせて行っている。

各種皮膚潰瘍の原因を精査し治療にあたる、デブリドマン、植皮などの外科的治療も積極的に行っている。

遺伝性皮膚疾患、特に先天性表皮水疱症、神経線維腫症、結節性硬化症においては積極的に新規の治療薬の開発も行っており、当科で開発を進めていた結節性硬化症の皮膚病変に対する外用薬は、昨年 6 月に市販された。更に結節性硬化症においては多数の科との横断的連携診療（TSC ボード）も行っている。その他様々な皮膚の遺伝病に対しても、他大学と共同でその原因遺伝子の検索や新規の治療法の実践を行っている。

これら専門疾患に対する臨床研究の詳細及びスタッフの紹介については、随時当科 HP に掲載している。

### 3. 診療体制

#### (1) 外来診察スケジュール（令和元年 6 月現在）

	月	火	水	木	金
1診 (初診)	初診	初診	初診	初診	初診
2診	再診				
3診	再診	再診	治験	腫瘍	再診
4診	再診	再診	専門 乾癬	再診	専門 遺伝病
5診	専門 リンパ腫	再診	再診	再診	再診
6診	再診	再診	再診	専門 遺伝病	
7診	再診 フットケア			再診	再診
午後	専門 アトピー パッチテスト 褥瘡※	専門 膠原病	専門 回診 検討会	専門 遺伝病 特殊外来 アレルギー 脱毛症 薬疹	専門 腫瘍 脱毛症 膠原病

※褥瘡は院内のみ

#### (2) 検査スケジュール

パッチテスト（月曜）、光線テスト（随時）、皮膚生検（随時）、サーモグラフィー（随時）、発汗テスト（月曜、入院時）、腫瘍に対する画像検査（随時）

## (3) 病棟体制

## 1) 病棟スケジュール（令和元年度）

月	火	水
皮膚科勉強会 病棟カンファ	手術	教授回診 病棟カンファ 医局会
木	金	
病棟業務	病棟業務	

2) 病棟は西 8 階で定床は 14 床である。

3) 病棟医長 1 名、副病棟医長 1 名、指導医 3 名、病棟担当医 5 名、スーパーローテート 1~2 名で診療に当たっている。

## 4. 診療実績

## (1) 外来診療実績

外来患者数（令和元年度）	
初診	1,278 名
再診	18,932 名
外来患者延べ数	20,210 名

## (2) 入院診療実績

入院患者数（令和元年度）	
新入院	294 名
退院	294 名
入院患者延べ数	4,712 名

## 主要疾患入院患者数（令和元年度）

疾患名	総患者数
皮膚悪性腫瘍	124
皮膚良性腫瘍	3
アトピー性皮膚炎、湿疹群	1
膠原病	15
乾癬	2
皮膚潰瘍、血管性病変	2
尋常性白斑	0
薬剤、金属、食物アレルギー 蕁麻疹	8
遺伝性疾患	1
薬疹、中毒疹	0
重症薬疹	0
感染症	0
自己免疫性水疱症	19
リンパ腫	9
発汗異常	33
その他	1

## (3) 検査手術件数（外来+入院）

検査（手術）名	件数
パッチテスト	56
病理組織検査	1,273
手術	228
蛍光抗体法、免疫染色法	529

## 5. その他

## (1) 認定施設

日本皮膚科学会認定専門医研修施設  
日本アレルギー学会認定教育施設

## (2) 専門医数

皮膚科専門医	18名
日本アレルギー学会指導医	1名
日本アレルギー学会専門医	1名
がん治療認定医	3名
臨床遺伝専門医	1名

## (3) 臨床研究

- 尋常性乾癬に対する活性型ビタミン D<sub>3</sub> 外用剤とステロイド外用剤併用による有用性に関する臨床的検討
- アンケートを用いた乾癬患者に対する QOL 評価と治療満足度調査
- 慢性蕁麻疹に対する抗ヒスタミン薬のかゆみに対する効果と QOL による評価アトピー性皮膚炎を持つ人々へのよりよい治療を探る -満足度を指標として
- 結節性硬化症に伴う皮膚病変を対象としたラパリムスゲル市販剤全例調査
- 神経線維腫症 I 型の皮膚病変を対象とした CSD-001 の安全性と有効容量を推定するプラセボ対照二重盲検無作為化群間比較試験
- 結節性硬化症、レックリングハウゼン病をはじめとする皮膚科の遺伝病の病因、病態解明および新しい治療法の開発を目指す研究
- 結節性硬化症、尋常性白斑およびその他の先天性白斑に対するラパマイシン外用療法の開発のための臨床試験
- 尋常性白斑に対する 308-MEL 治療におけるビタミン D<sub>3</sub> 外用剤の併用効果の確認
- アレルギー疾患の経年変化とその背景因子の横断的調査
- 関節エコーを評価指標とした関節性乾癬の早期検出に関する検討
- 食物アレルギー（口腔アレルギー症候群）に対するアンケート調査
- 皮膚疾患のホメオスタシスに関する免疫組織学的評価
- 有効な治療法のない脈管異常に対するシロリムスゲルの安全性と有効性を検討するパイロット試験
- 皮膚の細菌叢と結節性硬化症の皮膚病変の関係検討
- 神経線維腫症 I 型の皮膚病変を対象とした NPC-12G プラセボ対照二重盲検無作為化群間比較試験
- 結節性硬化症レックリングハウゼン病の関係の検討
- 結節性硬化症の皮膚症状と神経症状の相関検討
- 自家非培養表皮細胞移植による白斑治療を目指した臨床研究